

様式第4号（第12条関係）

事業者行動報告書

令和5年 7月 19日

（宛先）

滋賀県知事

提出者

住所 （法人にあっては、主たる事務所の所在地）  
大阪府大阪市西淀川区御幣島3丁目2番11号

氏名 （法人にあっては、名称および代表者の氏名）

株式会社ダイフク 代表取締役 下代 博

（代理人）執行役員 滋賀事業所長 林 智亮

滋賀県低炭素社会づくりの推進に関する条例（第21条第1項  
第22条第2項において準用する同条例第21条第1項）  
の規定に基づき、事業者行動報告書を作成したので、提出します。

事業者の氏名 （法人にあっては、名称 および代表者の氏名）	株式会社ダイフク 代表取締役社長 下代 博
事業者の住所 （法人にあっては、主たる 事務所の所在地）	大阪府大阪市西淀川区御幣島3丁目2番11号

1 事業所の概要

事業所の名称	株式会社ダイフク 滋賀事業所				
事業所の所在地	滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225				
主たる事業	細分類番号	2	5	9	6 他に分類されないはん用機械・装置製造業
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を 県内に有する事業者			
	<input type="checkbox"/>	従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室 効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を 県内に有する事業者			
	<input type="checkbox"/>	任意提出事業者			

2 計画期間および報告対象年度

計画期間	2021 年度 ～ 2024 年度
報告対象年度	2022 年度

3 計画の実施状況

計画の実施状況	別添のとおり
---------	--------

注 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とします。

標準様式第2号

(第1面)

1 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の実施状況等

(1) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた取組の実施状況

	取組項目	取組の内容	取組の実施状況
1	設備改善	工場内照明器具の省エネタイプへの更新	継続実施中
2	設備改善	空調機器の高効率化更新	継続実施中
3	設備改善	製品のめっき化による塗装ラインの使用低減	継続実施中
4	運用対策	コンプレッサーのエアブロー改善、エア漏れ低減、圧力損失改善	継続実施中
5			
6			
7			
8			

(2) エネルギー起源CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の実施状況

	温室効果ガスの種類	取組の内容	取組の実施状況
1			
2			
3			

(3) 上記の取組に係る目標の進捗に対する自己評価

製品の仕様(塗装方式)変更に伴い、設備改善を実施することで、省エネ効果につなげるとともに、空調設備の更新時期に合わせて省エネ型のものへ随時変更・更新しており、対策は順調と判断している。  
引き続き、大幅な省エネ効果が期待できる生産設備の改善は検討する必要があると考えている。  
2022年度は、目標:二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量を2018年度比で5.0%削減するに対してグループ全体で34.4%の削減を達成でき、排出量削減については、前倒しで達成ができた。

(第2面)

2 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減により低炭素社会づくりに貢献する取組の実施状況等

(1) 取組の実施状況

取組の内容	取組の実施状況
<p>○環境配慮製品の開発・提供による低炭素社会づくりへの貢献</p> <p>当社が設計・製造する自動倉庫、搬送設備、自動化設備、搬送・格納のシステム、車両洗浄設備において、省エネ性能を向上させることにより、お客様での使用段階におけるCO2排出抑制に寄与する。</p> <p>また、社内に環境配慮製品認定制度を設け、優れた環境性能を有した製品格付けを行い、外部公表によるPR効果とともに広く社会へ環境配慮製品の提供を促進させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・各事業部における設計・開発業務のプロセスで、環境配慮設計を組み込んで常時実施中。</li><li>・自社認定制度で認定した製品は現在83機種</li><li>・製品によるCO2削減貢献量も每期監視中。</li></ul>

(2) 上記の取組に係る目標の進捗に対する自己評価

<p>環境配慮認定製品(ダイフクエコプロダクツ)数については、昨年から6機種増加し、合計83機種となり順調に推移。</p> <p>CO2削減貢献量については、2022年度目標6万トンに対して、実績は約12万トンとなり目標を大幅に上回った。今後も引き続き顧客使用段階でのCO2排出量を削減できる製品の開発・設計を継続していく。</p>
--

(第3面)

3 その他の低炭素社会づくりに向けた取組の実施状況等

	取組項目	取組の内容および当該取組により達成しようとする目標	取組の実施状況等
1	生物多様性保全	滋賀事業所内の生態系調査・モニタリング及び動植物保全活動の実施	事業所内の結いの森にて希少種保全実施中。
2	環境教育	従業員に対する基盤教育の実施、及びエコアクション活動を推進	ダイフクエコアクション活動を通じての環境教育を、継続推進中。
3	カーボンオフセットクレジットの購入	当社総合展示場「日に新た館」の運営および来館者の移動に伴うCO2排出量に対するカーボンオフセットクレジットの購入	毎年のCO2排出量をオフセット実施中。 2022年度は212t-CO2のオフセットクレジットを購入
4			
5			
6			
7			
8			